

寅さん歩 その22

東京2020 聖火リレー-11

～富山県・新潟県～



写真右上は東京2020オリンピックの聖火リレーのトーチを掲げる平野寅次郎こと平野武宏です。全国のウォーキング大会を映画「男はつらいよ」の寅さんのように歩き回ったので妻の友人から「平野寅次郎」と命名され、ペンネームとしています。右上の写真は都庁でのトーチ公開時に撮影しました。パラリンピックのトーチも色違いであります。

東京2020大会の聖火は2020年3月26日に福島県をスタートし、移動日を含む121日をかけて47都道府県を回り、7月24日の開会式会場に到着します。

なお、2019年11月30日に完成した「新国立競技場」は2019年12月15日の竣工式を終え、「国立競技場」と呼ばれます。

寅次郎、八柳修之さん作成の「バーチャルウォークで沖縄から新国立競技場へ聖火を運ぶ（仮想コース）」を行い、通過した都道府県の寅次郎のウォークの思い出と映画「男はつらいよ」で寅さんの恋の記録をお話ししました。

映画「男はつらいよ」は第1作の公開[1969年(昭和44年)8月27日]から50周年となり、記念して2019年(令和元年)12月27日に第50作「男はつらいよ お帰り寅さん」が公開されました。寅さん役の渥美清さんは1996年(平成8年)に亡くなっていますが、今までの作品の寅さんが技術を駆使して登場とのこと。

「寅さん歩」も映画の50周年を祝って一足早く全国の聖火リレーのコースを紹介しながら、前回のバーチャルウォークで通過しなかった道県での寅次郎のウォークの思い出と寅さんの恋をお話したいと思います。各県名の脇の月日は実際に聖火リレーが行われる月日で、コースはスタートとゴールの予定地です。なお、2019年12月17日聖火リレーの詳細が発表されました。

〔富山県〕 2020年6月3日～4日

聖火リレーコースは6月3日 小矢部市～高岡市、4日 朝日町～富山市です。

寅次郎、2005年(平成17年)9月「立山まるごとウォーク全国大会」で立山

を訪問しています。立山町民ウォーキング大会との共催で地元の方が多く参加されてきました。参加者名簿の神奈川県 10 名の内 4 名が F W A 会員で驚きました。池袋駅前から夜行高速バスで富山駅へ電鉄富山で岩峯寺（いわくらじ）駅まで行き大会のシャトルバスでスタート・ゴールのグリーンパーク吉峰へ。

ここは中部山岳国立公園立山の玄関口で敷地 30 万坪、森の中に様々な施設を持つ総合レジャー公園です。空は灰色の雲に覆われアルプスの山並みは見えませんが、でも歩き始めると日差しが出てきました。山岳地区の大会らしくゼッケンには血液型記入欄までありました。スタート直後のコンクリートの道に「熊出没 注意」の看板があり驚きました。最近、畑や柿の木に現れたとのこと。コース誘導は町役場の若者達、家並みの沿道ではウォーカーを拍手で応援するご老人達らと、町を挙げての歓迎ぶりが良くわかりました。

立山信仰の要で源頼朝も再建した岩峯雄山神社へ。岩峯とは神を祀る場所の意味だと学びました。工事中のため重要文化財の全貌が見られず残念。垂れた稲穂の中の田舎道を歩きました。脇では立山から流れる水が音を立て、杉林から蝉しぐれが聞こえて来て、赤とんぼに混じり大きなオニヤンマを見つけました。田圃の脇に立つお墓が目立ちました。ご先祖様が田を守っているような光景です。チェックポイントの横江 頭首工管理事務所（頭首工とは土石流を溜める水防の専門用語）で立山特産のトマトと美味しい水のサービスで生き返りました。でも最後はゴールまで上り道です。ゴールでは水、とれたて野菜、富山米のプレゼントがあり、敷地内の吉峰温泉の露天風呂で疲れを癒しました。

2 日目は立山歩きでしたが、幹事をしている会社時代の同期会があり、残念ながら 2 日目は参加できず、「立山まるごとウオーク」は「立山半分ウオーク」になってしまいました。帰りは J R の旅でしたが、十日町付近で雷雨、雨が規制値を超えてストップ。ノロノロ運転になり接続の予約の新幹線にも乗れず 1 時間遅れで東京駅着でした。

映画の寅さん、富山県での足跡はありません。

聖火は新潟県へ引き継がれます。

〔新潟県〕 2020 年 6 月 5 日～6 日

聖火リレーコースは 6 月 5 日 糸魚川市～南魚沼市で佐渡市も通過します。

6 日 長岡市～村上市です。

寅次郎、2005 年(平成 17 年)8 月開催の「第 1 回上杉謙信公ツーデーマーチ」で

上越市を訪れています。

池袋駅からの夜行高速バスでスタート・ゴールの上越市役所に早朝に到着。

暑い日差しの中、戦国の名将 上杉謙信公の居城 春日山城を本丸跡まで上りました。中腹に立つ謙信公（写真右下）にご挨拶。確かに難攻不落の山城だと身を以って実感しました。眼下に広がる高田平野や日本海を望む直江津方面の眺めには苦勞して上ったかいがありました。

早くもコシヒカリの刈り取りや天日干しの木柵の準備が始まっていました。新米の美味しい部分はまずは身内で食べるとか。日本のスキー発祥の地 金谷山公園レルヒ記念館や雪国を感じさせる雁木の街並みや親鸞聖人の足跡の城下町高田の風情は良かったです。一緒に歩いていた札幌の女性は



豪雪地帯の各家にある雪下ろしの梯子に「札幌にはない！」と驚いていました。

翌日はF W Aの例会のため 2 日目の参加はやめ、会場近くの市民の家のお風呂（200 円）に入り、会場で出会ったF W Aスタッフの金井さんの車で帰宅しました。

「ひろば」平成 22 年（2010 年）6 月 寅次郎の旅（新潟県みなとまち編）もご参照ください。寅次郎、新潟県の友人に会いに行くという次女と一緒に大会に参加しています。

映画の寅さん、1963 年（昭和 38 年）8 月公開の第 31 作「男はつらいよ 旅と女と寅次郎」で新潟県に現われ、佐渡に渡っています。

甥の満男の運動会に行くと言い出した寅さん、迷惑がかかると「とらや一家」との騒動でまた旅に出ます。新潟で恋に破れ、コンサートから失踪した演歌歌手京はるみ（都はるみ）と出会った寅さん、漁船と一緒に佐渡へ。思い悩む、はるみを元気づけ、楽しく過ごしますが、やがてマネージャーが迎えに来て、はるみは寅さんに思い出にと指輪を渡して去ります。



寅さん、はるみとの日々が忘れられず、放心状態になります。柴又にお礼に来た、はるみはとらやで歌を披露。

はるみが恋人とやり直すと聞き、寅さんは失意の旅へ。「やはり自分は渡世人だ」という寅さんの寂しさがやりきれない感じです。「ローマの休日」寅さん版で、はるみと寅さんのデュエットもあります。

この映画の後、引退宣言する都はるみの歌声が存分に聞ける作品です。

聖火は山形県へ引き継がれます。

平野 寅次郎 拝